

鳥インフル 主要産地への拡大警戒

愛知の疑い例は再検査

国や地方自治体が鳥インフルエンザの感染拡大を警戒している。26日には愛知県豊橋市でも疑いがある鶏が見つかった。

確定すれば今季4県目となる。防疫体制の強化は一定の成果を上げているが、野鳥や野生動物が媒介とみられる感染の拡大に歯止めがかからない。鶏肉や鶏卵の主要産地に感染が広がれば、国民生活にも影響しかねない。

発表した。1回目の検査結果は「陰性」だったが、確定できなかったという。再検査で「陽性」になれば、約15万羽の殺処分に踏み切る方針だ。



鳥インフルエンザに感染した疑いのある鶏が見つかった農場 (26日、愛知県豊橋市)

疑い例の遺伝子検査を実施した愛知県は27日未明、再検査を実施すると

初動対応を強化

染は野鳥や野生動物が媒介になっているとみられる。環境省によると、死亡した野鳥が感染していた事例が昨年12月から5件確認されており、「例年よりも多い」(鳥獣保護業務室)という。

農林水産省は宮崎県で家畜伝染病の口蹄疫(こつていえき)が発生した反省も踏まえ、鳥インフルエンザの初動対応を強化してきた。国の防疫対策に関する指針では、最終検査で感染を確認した後に殺処分しなければならぬ。だが検査結果を待っている間にまん延する恐れがあるため、今季は全てのケースで前倒し処分を実施している。

一方、自治体の対応に限界があるのも確かだ。26日に感染が確認された鹿児島県出水市の養鶏農場では、19日から鶏が数羽単位で死んでいくことがわかった。農場から依頼を受けた獣医師が別の病気と診断したこともあって、県への連絡が25日にずれ込んだ。

鶏肉・卵に影響も

主要産地で今後も感染が広がれば、鶏肉や鶏卵が値上がりする可能性もある。鹿児島県と宮崎県の鶏肉の産出額は1位と2位で、愛知県の鶏卵は5位。3県のプロイラーと採卵鶏は全国の36%と13%を占めるだけに、鳥インフルエンザの影響が懸念される。

一部の鶏肉や鶏卵の取引価格はすでに上昇している。宮崎県や鹿児島県からの供給が多い福岡地区では26日、鶏卵の標準品Mサイズの卸値(加重平均)が1.205円と前週末より15円上がった。プロイラーも肉(東京地区の加重平均)も直近の取引があった25日時点で1.701円となり、前週末に比べ10円高くなった。

Q 例年に比べ多発している理由は。

A カモなどの渡り鳥が新しい経路でウイルスを日本に持ち込んでいるためと考えられる。営巣地のシベリアに例年はウイルスはなく、感染した鳥が多いとみられる中国を経由する際にウイルスを取り込み、1月ごろから春にかけて日本にやってくる。しかし今シーズンはシベリアにもウイルスが広まっており、昨秋以降、そこから直接飛来

鳥インフルなぜ多発？



する鳥もウイルスを持ち込んでいるようだ。

Q ウイルスの特徴は。

A 今回、感染が広がっているウイルスは致死率が高い高病原性分類される。中でも感染すると大半が死ぬ強毒型が見つかっている。カモは感染してもほとんど症状が

渡り鳥、感染源広がる

出ず死なないため、感染を広めやすい。

Q 当面の対策は。

A 農場や鶏舎にウイルスが入らないように、出入りする人や車両の消毒を徹底する。野鳥や野生動物が侵入してウイルスを運ぶ可能性があるのを防鳥ネットを付けるなどし、隙間を防ぐ。感染した鶏などが見つかったら殺処分を急ぐ。野鳥の動きを止めるのは難しいが、弱っている個体や死骸を見つけたら、そこか

らウイルスが広がらないよう隔離する。

Q 人間への危険は。

A ウイルスが細胞に入り込む仕組みが異なるため、鶏に接している農家などでも人間にはうつらない。ただ海外では、

ウイルスが大量に付いたフンを吸い込むなどして感染した例が、まれにある。農水省によると感染した鶏の卵や肉を食べた人にうつった例はない。またウイルスは70度以上に加熱すれば死ぬ。